

---

## 2章 地域の現状と課題

---

- 2.1 十勝地域について
- 2.2 十勝地域の公共交通の現状について
- 2.3 十勝地域の公共交通の課題について
- 2.4 個別の対象路線に関する役割と課題

## 2.1 十勝地域について

### 2.1.1 十勝地域の概要

☒ 2.1.1 では、当地域の人口動態や生活施設の立地状況等について示します。

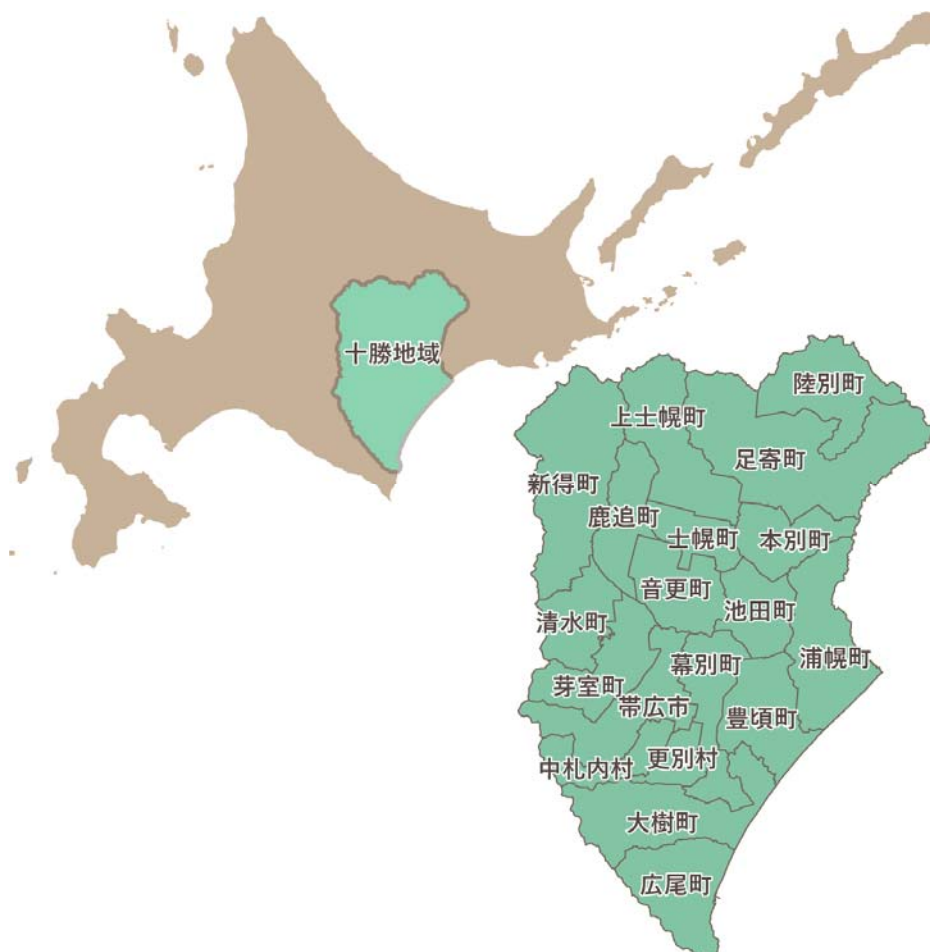
#### (1) 生産空間・とかち

☒ 当地域は、北海道の中央南東寄りに位置しており、中核都市である帯広市を含めて、1市16町2村から構成されます。圏域の総人口は332,648人（北海道の1/16）、総面積は10,831km<sup>2</sup>（同1/8）となっています。

☒ 基幹産業は、酪農や畑作などの第一次産業となっており、魅力的な観光資源も多数有しています。

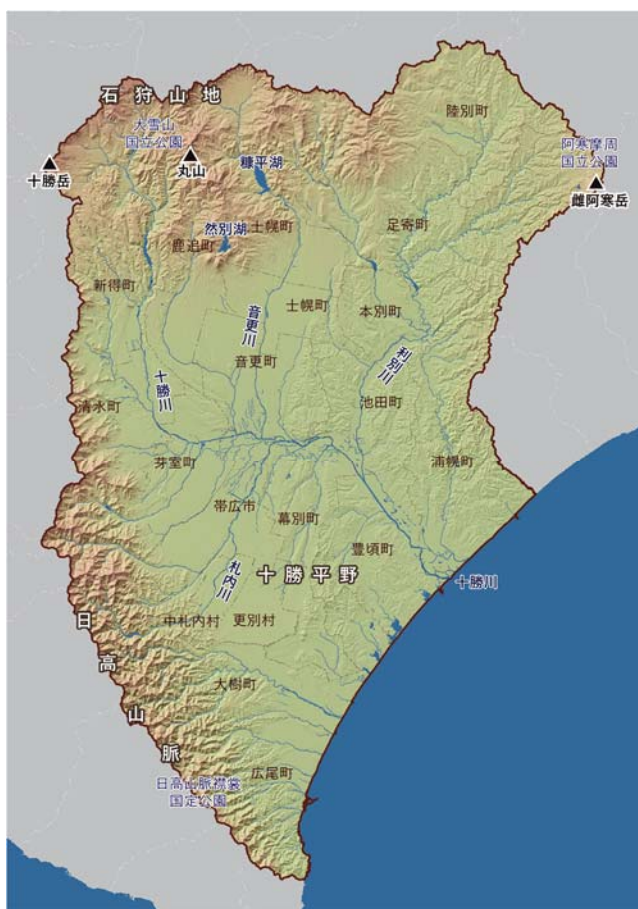
※総人口の出典：「国勢調査（人口（令和2（2020）年）」（総務省統計局）（<https://www.stat.go.jp>）

※総面積の出典：「全国都道府県市区町村別面積調（令和4（2022）年）」（国土地理院）（<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO-title.htm>）



## (2) 土地・河川・気候

- ☒ 当地域は、北方に石狩山地、西方を日高山脈に囲まれた土地となっています。
- ☒ 十勝川の流域には、国内屈指の面積を有する十勝平野が広がっています。
- ☒ 夏期日中は気温が高い場合もありますが、朝晩の気温差がある気候と言えます。当地域の最北部に位置する陸別町では、冬期間、最低気温がマイナス 30℃以下も記録されています。
- ☒ 「とち晴れ」という言葉があるように晴れる日が多く、年間降水量は少ない地域と言えます。



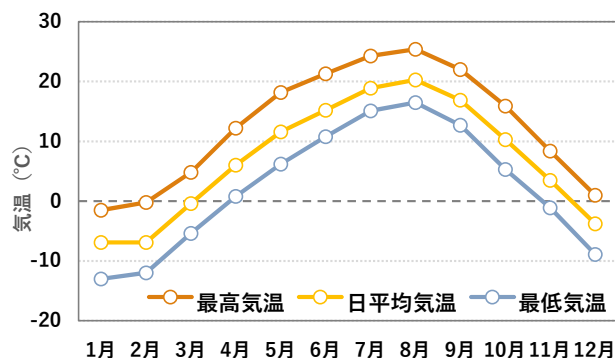
図：十勝地域の山地・河川等の状況

出典：「国土数値情報（土地利用細分メッシュ（ラスター版）データ）」（国土交通省）

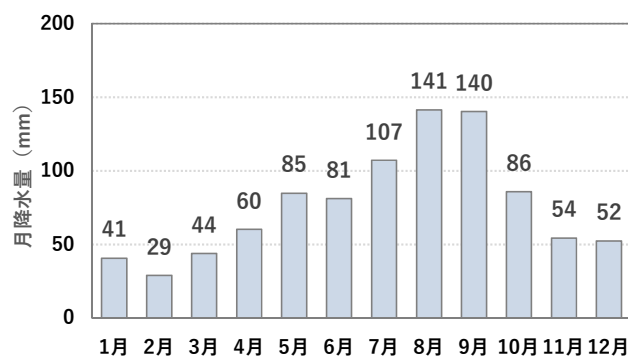
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)

「基盤地図情報数値標高モデル」（国土地理院）

([https://fgd.gsi.go.jp/download/ref\\_dem.html](https://fgd.gsi.go.jp/download/ref_dem.html))



図：月別気温



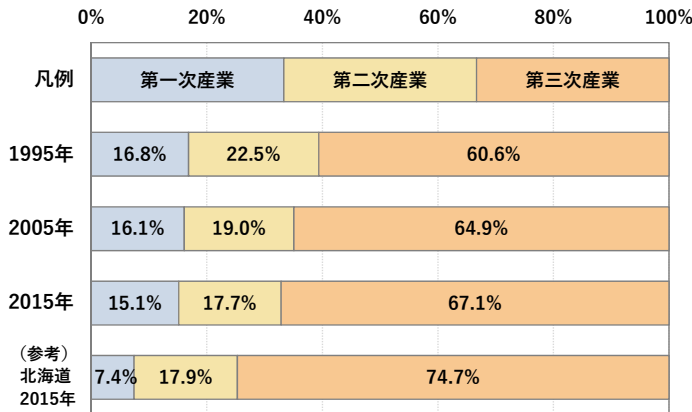
図：月別降水量

出典：「気象庁気象統計（気象データ：帯広 30 年間平均（平成 3（1991）年～令和 2（2020）年）」（気象庁）  
をもとに作成

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

### (3) 産業構造

- ☒ 第一次産業の割合が北海道全体と比較して高く、農業が当地域の基幹産業となっています。
- ☒ 食品製造業等も多い地域ですが、第二次産業従事者数の減少が顕著となっています。
- ☒ 農業産出額は、当地域全体で年間 3,000 億円を超え、中でも「乳用牛」が全体の約半数を占めている状況です。



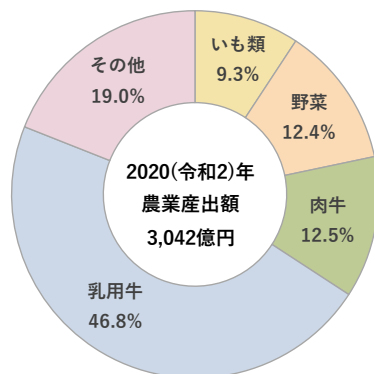
出典：「国勢調査（人口平成 7（1995）年-平成 27（2015）年）」（総務省統計局）をもとに作成  
(<https://www.stat.go.jp>)

図：十勝地域の産業構成の推移



出典：「市町村別農業産出額（平成 26（2014）年-令和 2（2020）年）」（農林水産省）をもとに作成  
([https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson\\_sansyutu/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson_sansyutu/))

図：十勝地域の農業算出額の推移



出典：「市町村別農業産出額（令和 2（2020）年）」（農林水産省）をもとに作成  
([https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson\\_sansyutu/](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson_sansyutu/))

図：十勝地域の農業算出品の割合（令和 2（2020）年）

## (4) 十勝地域の位置

- ❑ 当地域は、札幌市や新千歳空港などが位置する道央エリアと釧路・根室エリア、オホーツクエリアの結節点となっています。
- ❑ 札幌市から当地域の中核都市である帯広市までは、自動車では約 3 時間の距離に位置しています（道東自動車道を利用の場合）。

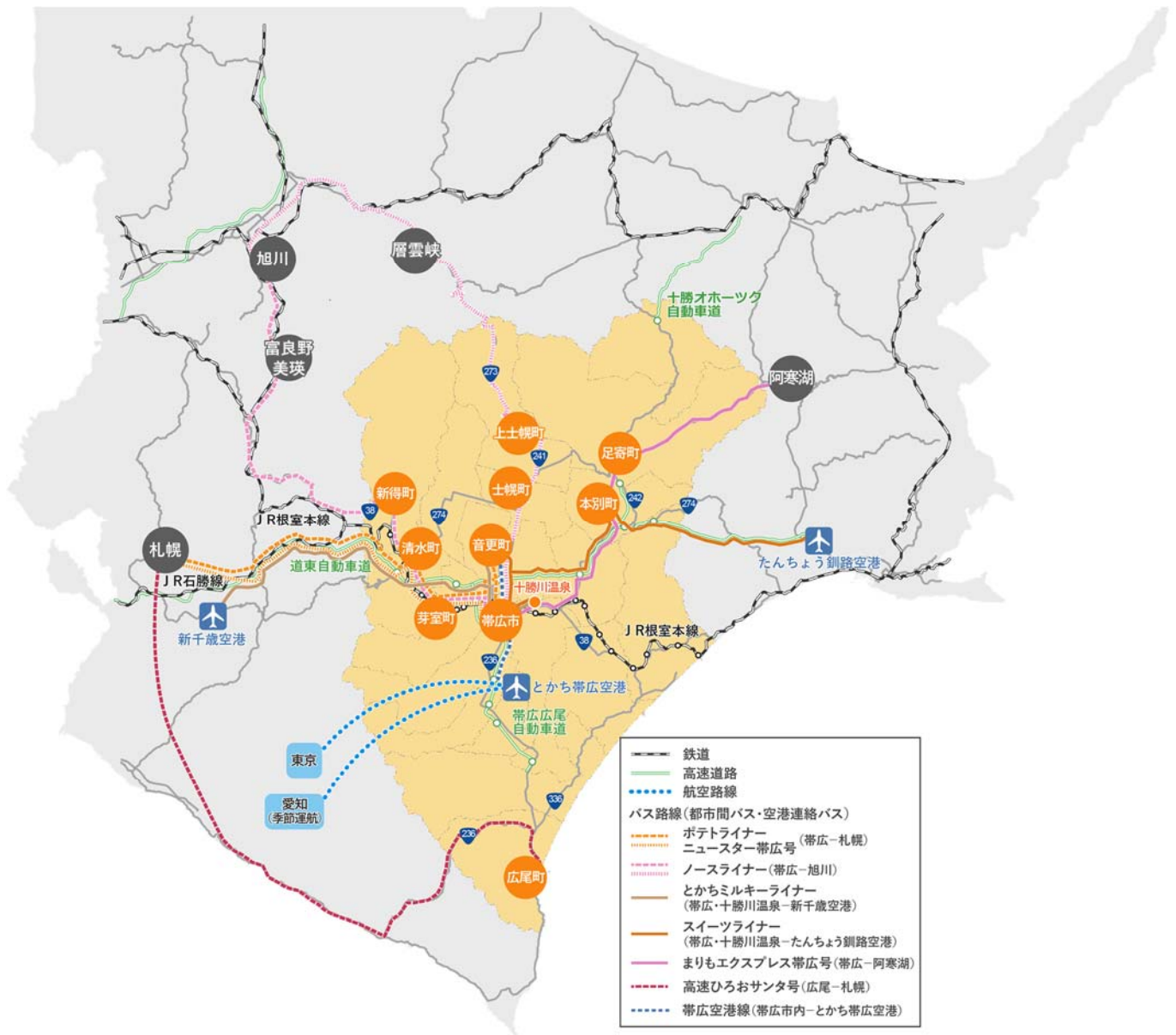


図：十勝地域の位置と主な都市間ネットワーク等

※第 5 期以降の北海道総合開発計画における 6 圏域（道南、道央、道北、オホーツク、十勝及び釧路・根室）を地域生活経済圏により区分

(5) 道路ネットワークおよび都市間交通ネットワーク

- ☒ 当地域は、一般国道や道東自動車道によって札幌方面や釧路方面と繋がっています。また、オホーツク方面に繋がる十勝オホーツク自動車道は、足寄 IC から陸別小利別 IC 間が未開通となっていますが、そのうち未着工区間となっていた【足寄―陸別間】の事業が再開されています。
- ☒ 鉄道は、札幌・千歳方面、滝川・富良野方面、釧路方面に J R が運行しています。
- ☒ 道内主要都市（札幌・旭川）や観光地（阿寒湖・富良野・美瑛）、主要空港（新千歳空港・釧路空港）を結ぶ高速バスが帯広市を起点に運行しています。
- ☒ 航空路線は、とちち帯広空港から東京及び愛知（季節運航）までの路線が運行しています。




図：十勝地域の道路ネットワーク及び都市間交通ネットワークの状況  
 ※各バス事業者HP記載情報をもとに作成


## 2.1.2 管内の市町村の概要

☒ 2.1.2 では、管内 19 市町村の概要について紹介します。


### (1) 帯広市

	おびひろし 帯広市	人口：165,047 人 (令和 4 (2022) 年 1 月 1 日現在) 面積：619.34km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・ばれいしょ、ながいも、だいこん ・スイーツ、豚丼、ハム・ソーセージ ・ばんえい競馬
<p>帯広市は、高速道路や鉄道、とちか帯広空港を有する、産業経済、教育、福祉、行政などの都市機能が集積した東北海道の拠点都市です。広大な大地や豊富な農畜産物など、地域の強みを生かした「フードバレーとちか」を推進し、都市と農村、環境と産業が調和したまちづくりを進めています。また、帯広競馬場では、迫力ある「ばんえい競馬」のほか、観光交流施設「とちかむら」で十勝の物産やグルメ、スイーツなどが楽しめます。</p>			


### (2) 音更町

	おとふけちょう 音更町	人口：43,483 人 (令和 4 (2022) 年 1 月 1 日現在) 面積：466.02km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・十勝川温泉 ・道の駅ガーデンスパ十勝川温泉 ・道の駅おとふけ なつぞらのふる里 ・白樺並木 ・音更大袖振大豆
<p>音更町は広大な十勝平野のほぼ中央にあり、自然と都市の魅力を兼ね備えた、町村の中では北海道一の人口を有する活気に満ちたまちです。北海道遺産に選定された「モール温泉」で知られる十勝川温泉は、別名「美人の湯」と言われるほどの良質な湯が魅力。1.3km 続く白樺並木や色とりどりの光が幻想的なイベント「彩凜華<sup>®</sup>」など、四季を通じて観光客で賑わいます。また、令和 4 (2022) 年 4 月に道の駅おとふけ「なつぞらのふる里」がグランドオープンし、連日多くの来場者で賑わいを見せています。農業が基幹産業で、小麦、小豆、大豆は作付面積・収穫量・生産量が日本トップクラスを誇っています。小豆はその品質の良さから全国の老舗和菓子店で使用されているほか、「音更大袖振大豆」は一般的な大豆より甘みがあることから、豆腐や豆菓子の原料として高い評価を得ています。</p>			


### (3) 士幌町

	しほろちょう 士幌町	人口：5,946 人 (令和 4 (2022) 年 1 月 1 日現在) 面積：259.19km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・しほろ牛 ・じゃがいも
<p>士幌町は畑作や酪農、畜産が盛んなまちで、周囲は大雪山系の東ヌプカウシヌプリを最高峰に、東部には橋梁が続いて居辺川が流れ、自然豊かで美しい景観が広がっています。明治 31 (1898) 年に開拓がはじまり、昭和 10 (1935) 年代に「農業はどうあるべきか、士幌はどうあるべきか」が議論され、「もしこの世にユートピアがあるとすれば、士幌にそれを実現しよう」と「農村ユートピア」の実現を誓約し、先人達のたゆまぬ努力により発展を遂げ、全国でも有数の農村工業地帯となりました。令和 3 (2021) 年には開町 100 周年を迎え、今後においても士幌町が目指す「輝く未来へ しほろ創生」を実現し、地域の人・産業・資源を活かした「活力ある町」と、町民誰もが安心・安全、生きがいを実感できる「真に豊かな農村しほろ」を次世代に引き継いでいくためのまちづくりを進めています。</p>			


## (4) 上士幌町

	かみしほろちょう 上士幌町	人口：4,935人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：696.0km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・北海道バルーンフェスティバル ・十勝ナイトイ和牛
<p>上士幌町は、十勝地方の北部、日本一広い国立公園である大雪山国立公園の東山麓に位置し、町内の約76%が森林地帯と自然豊かなまちです。産業は、大自然の恩恵を受けた畑作、酪農などの農業や林業などの第一次産業と源泉かけ流し温泉であるぬかびら源泉郷や幌加温泉、日本一広い公共育成牧場のナイトイ高原牧場、北海道遺産である旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群や十勝三股の樹海などの観光業も盛んです。地方創生の取組として、人の流出に歯止めをかけ、地域を活性化させるため、住まい・仕事・子育て・教育に対する支援の充実を図っています。Society5.0時代を見据え、農業、医療・介護、教育、移動、買い物等産業や生活などにおける生産性や利便性の向上を目指すスマートタウンの実現、都市部人材と地元住民との交流や企業連携を進めています。令和3(2021)年12月にゼロカーボンシティ宣言を表明し、令和4(2022)年には脱炭素先行地域の選定を受け、広大な森林による二酸化炭素吸収源対策や畜産バイオガスによるエネルギーの地産地消と売電等の取組みをSDGsの理念に沿った形で行っています。コミュニティと支え合い、人材センターと生業の開発などによる生涯活躍できるまちづくりに取り組んでいます。</p>			

## (5) 鹿追町


	しかおいちょう 鹿追町	人口：5,228人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：404.70km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・大雪山国立公園、然別湖 ・鹿追型ゼロカーボンシティ
<p>鹿追町は十勝平野の北西部に位置する農業と観光を基幹産業とする町です。平野部は優良な農村地域として、大規模化、機械化などの農業経営を進めつつ、家畜ふん尿の適正処理を目的としたバイオガスプラントを中心として、環境に配慮した資源循環型農業に取り組んでいます。山岳部は大雪山国立公園の恵みを受け、然別峡や然別湖畔では鮮度が高く希少な秘湯が湧出し、また冬季の氷と雪の世界「しかりべつ湖コタン」は唯一無二の美しさとして有名です。他にも乗馬、気球、犬ぞり(冬季)など多彩な体験事業を有し、町全体がとがち鹿追ジオパークに認定され豊かな自然環境を満喫できます。令和3(2021)年3月には、バイオガスプラントを核とした再生可能エネルギーの更なる有効活用を進め、脱炭素による地方創生を目指す「鹿追型ゼロカーボンシティ」を宣言し、令和4(2022)年には環境省の第1回脱炭素先行地域に選定されました。次世代エネルギーとして注目される水素の活用など、脱炭素社会の実現へ一つひとつの取組を積み重ねながら、環境に優しい町づくりを進めています。</p>			

## (6) 新得町

	しんとくちょう 新得町	人口：5,668人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：1063.83km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・そば ・フロアカーリング
<p>北海道のどまんかに位置する新得町は、鉄道交通の要所であるJR新得駅があり、在来線はもちろん特急も全列車が停車するため、札幌や新千歳空港へもアクセスがよく交通の便に優れ、令和4(2022)年9月22日に国から(仮称)新得スマートインターチェンジが認可され、十勝の玄関口としての機能を果たし、観光客の誘致や十勝産品の魅力発信の地としての機能も期待されています。新得町は、夏はラフティングにゴルフ、乗馬などを楽しむことができ、冬には道内でも有数の規模であるサホロリゾートスキー場でスキー、スノーボードを楽しむことができるアクティビティ豊富な町です。また、新得町は「ろう者と共に生きるまちづくり」を進めるため、手話が言語であることの認識に基づき、手話の理解と広がりをもって地域で支え合う住みよい町を目指し、平成26(2014)年4月1日より「手話に関する基本条例」を全国の市町村で初めて施行しました。特産品である「そば」は、昼は暖かく夜は涼しいという内陸性の気候を活かして生産され、高品質な「そば」として全国的にも有名です。最も大きなイベントである「新そば祭り」は毎年9月に開催され、町内外からの出店者による「そば」を楽しもうと、2万人を超える来場者が訪れます。</p>			




## (7) 清水町

	しみずちよう 清水町	人口：9,157 人	見どころ・特産等
		(令和 4 (2022) 年 1 月 1 日現在)	・清水町アイスアリーナ、清水公園
		面積：402.25 km <sup>2</sup>	・十勝若牛

清水町は十勝平野の西部に位置し、「国道 38 号」と「国道 274 号」の 2 本の国道が交差しており、さらには、道東自動車道の IC（インターチェンジ）を有する、まさに道東の玄関口とも呼べる町であり、豊かな大地が育む畑作と酪農が盛んな町です。新鮮な乳製品をはじめ「十勝若牛」「十勝清水にんにく」など美味しい農畜産物がたくさんあります。また、十勝におけるアイスホッケー発祥の地である御影地区を拠点に、数多くのチームが活躍しており、全国大会で上位入賞を果たしているほか、町民による「ベートーヴェン第九交響曲演奏会」が開催されることでも有名で、幼児から第九を歌える「第九のまち」です。今後は、第 6 期清水町総合計画で掲げた将来像「まちに気づく まちを築く とかち清水～想いをミライに繋ぐまち～」に向けて、町の歴史や地域性を尊重した郷土愛の醸成や、人との絆や心のつながりを重要とするコミュニティの形成を目指した町づくりに取り組んでいます。


## (8) 芽室町

	めむろちよう 芽室町	人口：18,181 人	見どころ・特産等
		(令和 4 (2022) 年 1 月 1 日現在)	・ゲートボール発祥の地
		面積：513.76km <sup>2</sup>	・小麦・てん菜・ばれいしょ・豆類・スイートコーンなど

「日本の食料基地」と言われる十勝平野の中央に位置する芽室町は、肥沃な大地と気候条件に恵まれた農業を基幹産業とし、農畜産・林業関連企業を中心とした多くの企業が立地する東工業団地を有しています。また、町内には高速道のインターチェンジ（2 箇所）や特急が停車する JR の駅もあり、交通アクセスに恵まれています。


芽室町では、“町民と行政の協働によるまちづくり”を掲げ、氷灯夜などに代表される各種イベントや、町内産の農産物を活用した新しいグルメの創造など、町民の主体的な地域活動を原動力とした取り組みが盛んに行われています。かねてから、発達支援システムの構築などに力を入れてきましたが、近年では“誰もが当たり前で働いて生きていけるまち”を目指し、就労を希望する方と雇用を希望する企業の双方を支援する一般就労定着を推進しています。第 5 期芽室町総合計画の将来像である「みんなで創り みんなでつなぐ ずっと輝くまち めむろ」の実現に向けたまちづくりを推進していきます。

## (9) 中札内村


	なかさつないむら 中札内村	人口：3,913 人	見どころ・特産等
		(令和 4 (2022) 年 1 月 1 日現在)	・六花の森、札内川園地
		面積：292.58km <sup>2</sup>	・えだ豆、えだ豆加工品

日高山脈中央部を源とする清流・札内川流域に広がる村です。その清流を集め豪快に流れ落ちる「ピョウタンの滝」がある札内川園地は、滝周辺の豊富なマイナスイオンを浴びながら自然豊かな園内を散策することができる癒しの空間です。毎年多くの観光客が訪れ、夏はキャンプ場としても賑わいをみせています。柏林に囲まれる「六花亭アートヴィレッジ中札内美術村」には相原求一朗美術館や小泉淳作美術館などがあり、一日中芸術に親しむことができます。また、「道の駅なかさつない」は観光インフォメーション、情報コーナーのほか、レストランや物産販売所において新鮮な地元食材の提供を行っており、観光客の憩いの場となっています。市街地から車で 5 分程のところには「六花の森」があり、ハマナシやエゾリンドウなどの草花が季節ごとに花開き、清らかな小川が流れる豊かな自然環境の中、ゆったりとした時間を過ごすことができます。平成 28 (2016) 年、アートの村づくりや農村自然景観が評価され、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。


## (10) 更別村

	さらべつむら 更別村	人口：3,177人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：176.90km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・大型農業でGPS付きトラクター約400台 ・すももの果実等を使用した特産品 ・スーパービレッジ構想の推進
<p>更別村は、北海道・十勝地方の中南部に位置し、「十勝あずき」に代表される豆類、じゃがいも、小麦などを生産する見渡す限り穀倉地帯の村です。道路はひたすらまっすぐで最長10数キロにも及びます。とち帯広空港からは車で15分。着陸時飛行機から見える更別村の風景は「これぞ北海道」という印象がかもしれません。雄大な日高山脈が一望でき、緑の台地と十勝晴れの澄んだ青空が似合う、広大な十勝平野の真ん中にある農業を基幹産業にした村です。農家1戸当たり50.7haの農地を有する国内最大級の大型農業の村であり、豊かな食料生産基地です。また、一人当たりの医療費の低さや出生率の高さが示すとおり、健康と豊かさを実感でき、自然災害が少ないことから暮らしやすく、安心な環境があります。「住みたい住み続けたいまち ともにつくろう みんなの夢大地」を目標に楽しく、更別スーパービレッジ構想により、デジタル機器やサービスを活用し暮らしやすいまちづくりを進めていきます。十勝管内の中核都市である帯広市へ通じる唯一の幹線交通である十勝バスを軸に、市街地を無償で利用できる村民バスと農村地域（自宅）と市街地間を有償運行する予約運行型（デマンド）乗合タクシーにより、利便性の高い公共交通を提供しています。</p>			


## (11) 大樹町

	たいきちょう 大樹町	人口：5,423人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：815.68 km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・日本一の清流「歴舟川」 ・北海道スペースポート
<p>大樹町は、南十勝の中央にあり、緑あふれる自然と、美しく綺麗な水、太陽の光輝く青い空の下で、町民が手を取り合って心豊かな文化の里づくりを行っています。日高の稜線には、日本二百名山のペテガリ岳があり、山麓部の渓谷と奇岩の間を清流が下り、夏は新緑、秋は全山が紅葉に覆われます。太平洋沿岸には手つかずの原生花園が広がっており、ホロカヤントーや生花苗沼で釣り等のレジャー、晩成温泉でゆったりと保養を楽しむこともできます。町の産業は、第一次産業の農林水産業を柱に、関連産業、二次加工業が盛んです。農業は、酪農と畑作を中心に寒地農業を確立しています。林業は、豊かな森林面積を背景に天然林の保護と更新、造林事業に力を入れています。漁業は、浜大樹と旭浜の両漁港を基地に沿岸漁業を中心として、サケ、マス、毛ガニ、シシャモ、ホッキ貝等の高級魚介類の資源に恵まれています。さらに、二次加工業にも力を入れており、チーズや海産物等が各地で好評を博しています。また、21世紀は宇宙の時代です。宇宙旅行が夢ではなくなってきた昨今、「大樹から宇宙へ」という夢のある構想もあり、航空宇宙産業基地形成に向けて、より一層取り組んでいきます。</p>			


## (12) 広尾町

	ひろおちょう 広尾町	人口：6,359人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：596.54km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・ししゃも、秋鮭、昆布、毛がに ・広尾サンタランド・イルミネーション
<p>広尾町は、十勝の最南端に位置し、東は北海道有数の漁業資源を有する太平洋に面し、西は雄大な日高山脈の山並みがそびえ立つなど、豊かな自然に囲まれた町です。また、サンタクロースの故郷ノルウェーが認めた国外で唯一のサンタランドとして、全国の人に夢と希望を届けています。基幹産業は、漁業を中心に農林業も盛んで、これらの産業がまちの経済を支えています。漁業は季節ごとの魚種が豊富で水産加工業者も多くあり、海産物がまちの特産品として全国の消費者に届けられています。農業は酪農が主体で、冷涼な気候のもと良質な生乳が生産されています。これら生産物を首都圏などへ届けるための拠点が重要港湾十勝港です。広尾町のみならず、農業王国十勝全体の海の物流を担っています。広尾町も他の地方自治体と同様に、人口減少と少子高齢化の進行が課題ではありますが、まちのめざす将来像「海・山・川が織りなす、希望が灯るサンタランド・ひろお」の実現に向けて、次世代に引き継ぐことのできるまちづくりを町民参加により進めています。</p>			


## (13) 幕別町

	まくべつちょう 幕別町	人口：26,273人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：477.68km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・パークゴルフ発祥の地 ・ナウマン象記念館 ・幕別産和稔じよ ・忠類産ゆり根
<p>幕別町は、北海道・十勝の中央部からやや南に位置し、東西間で20km、南北間で47kmの距離で、幕別地区、札内地区及び平成18(2006)年2月7日に旧忠類村を編入合併した忠類地域の3つの地域で形成しています。また、十勝川をはじめ、猿別川、札内川、途別川、当縁川が流れ、平野や段丘が広がる豊かな大地では、畑作や酪農を中心とした農業が盛んです。コミュニティスポーツ「パークゴルフ」は昭和58(1983)年に幕別町で考案され、平成30(2018)年には全国に約1,260コースがあり、愛好者の数は130万人と推定されています。また、平成28(2016)年には海外初の公認コースがアメリカにできるなど、日本国内はもとより世界へ着実に広がりを見せています。近年、幕別町は、5人のオリンピックを輩出しています。町民の夢や希望を与えてくれた5人には幕別町応援大使として、幕別町の魅力を広く町内外に発信していただいています。</p> <p>忠類では、ナウマン象の化石骨が昭和44(1969)年7月に忠類晩成の農道工事現場で偶然発見され、これまでの研究を書き換えるほどの貴重な発見となり、発掘されたナウマン象化石骨の復元骨格標本は、国内のみならず、海外にも展示されています。幕別町は、恵まれた豊かな自然環境のもと、それぞれの地域において特色ある歴史・文化を育み雄大な大地を活用した産業の振興を図ってきました。今後は、それぞれの地域間交流をより深めるとともに、これまで培ってきた国内外の交流のほか、ICTの発展により、あらゆる人・場所とつながることが可能となります。このような社会環境のもと、町民が幸せな笑顔あふれるまちを創造し、「住み続けたい」「住みたい」幕別町であることを目指します。</p>			


## (14) 池田町

	いけだちょう 池田町	人口：6,288人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：371.79km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・ワイン城 ・十勝ワイン ・秋のワイン祭り ・カーリング ・いきがい焼
<p>池田町は、明治32(1899)年5月「洞寒村外13カ村戸長役場」の設置に始まり、平成30(2018)年には開町120年を迎えました。十勝平野の中央やや東寄りに位置し、十勝川と利別川に育まれた肥沃な大地の恵みを土台に、豊かな生活基盤と産業経済、文化の将来への継承を目指すとともに、住民との協働による特色あるまちづくりを進めています。池田町のまちづくりを特徴づける「ワインづくり」は、事業着手からすでに半世紀以上が経過し、ブドウ栽培やワイン製造、販売を通じた産業連携や雇用維持への効果とともに、ワイン城や製造施設の観光拠点としての役割、食文化の発展や国際・地域間交流への波及など多方面への広がりをもたらしました。これらの取り組みを通じて得た「無から有を生み、質を高め、多方面へ展開する」という経験と考え方は、池田町の「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」に欠くことのできないものとなっています。将来に向けてもこれまでの歴史や経験を忘れずに、「ひとが育ち まちが育つ みんなでつろう 明るいふるさと いけだ」を町の将来像として掲げ、豊かな地域資源と大いなる自然環境を生かし、安全安心な生活を支える地域社会を築き、誰もが「住んでいて良かった」と思え、郷土に誇りや愛着が感じられるよう住民参加による協働のまちづくりを進めています。</p>			


## (15) 豊頃町

	とよころちょう 豊頃町	人口：3,031人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：536.71km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・はるにれの木 ・ジュエリーアイス
<p>豊頃町は、十勝地方の東南端に位置し、「十勝発祥の地」として140年以上もの歴史が色濃く残されている農業と漁業を基幹産業とする人口約3,000人の町です。なかでも、明治30(1897)年、ウシシュベツ原野(豊頃町二宮)に辿り着き開拓を決めた二宮尊親翁一行の農民の独立と村づくりに取り組む際の基礎とした「報徳のおしえ」は、現在の豊頃の礎となっており、次世代である子どもたちにも授業を通して継承しています。基幹産業である畑作から畜産までの大規模な農業が育む豊かな農産物や太平洋の新鮮な秋鮭等の海産物等が豊頃町の経済をそれぞれ支えています。また、観光面では、北海道の天然記念物にも指定されている原生花園や町のシンボルでもある「はるにれの木」また近年話題にもなり観光客が多く訪れる「ジュエリーアイス」など自然環境にも恵まれ、タンチョウやオジロワシといった貴重な野鳥を見ることも出来ます。町民一人ひとりがともに支え合い、安心して健やかにいきいきと暮らせる環境づくりのために、福祉・子育て支援などの施策を切れ目なく継承・発展させていくまちづくりを進めていきます。</p>			


## (16) 本別町

	ほんべつちょう 本別町	人口：6,545人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：391.99km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・義経の里本別公園 ・光黒大豆を使用「クレイマメ」ブランド商品
<p>本別町は、北海道・十勝の東北部に位置する町です。総面積の半部以上が山林でおおわれ、利別川が町の中心を穏やかに流れる美しい自然と豊かな緑の中で、約 6,500 人が暮らしています。十勝特有の大陸性気候で、夏と冬の寒暖差が大きく、一年を通じて降水量が比較的少ないのが特徴です。かつては林業が盛んでしたが、現在の産業の中核は農業と工業で、特に地場製品の加工を行う工場が発展しています。町の中心部を通る国道 242 号は、道東自動車道本別 IC・JCT と接続しており、釧路方面や札幌などの道央・道東圏を結ぶ交通や流通の拠点となっています。近年は、本別公園や道の駅を核とした観光の振興をはじめ、まちぐるみで支え合いの仕組みとして、地域包括ケアシステムの構築にも力を入れています。</p>			


## (17) 足寄町

	あしよろちょう 足寄町	人口：6,545人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：1,408.04 km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・オンネトー ・螺湾(らわん) ブキ ・放牧酪農 ・チーズ
<p>足寄町は、十勝総合振興局管内の東北部に位置し、1,408.04km<sup>2</sup>の広い面積を有しています。この広大な大地では、東京ドーム約 270 個分の面積を持つ大規模草地育成牧場や独特の湖面の色彩が訪れた人を魅了するオンネトー、高さ 2～3m にもなる螺湾ブキなど、豊かな自然が育まれています。また、平成 30(2018)年には開町 110 年という節目を迎えました。先人から継承した緑豊かな大地という貴重な財産を後世に継承しながら、町民全てが心穏やかな毎日を過ごせるよう、人と自然にやさしい地域社会を考えて様々な事業が推進され、活力ある町の基盤が整えられています。子どもも大人も、そしてお年寄りも、全ての人々が「この町に住んでよかった」「この町に生まれてよかった」と思える、ふれあいのあるまちづくりが進められています。</p>			

## (18) 陸別町

	りくべつちょう 陸別町	人口：2,279人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：608.90km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・基幹産業 酪農 ・林業(特産「りくべつ牛乳」) ・日本一寒い町 ・りくべつ鉄道 ・銀河の森天文台
<p>陸別町は、十勝総合振興局管内の東北部に位置し、地域の中央を南北に貫流する利別川によって、ふたつの地形帯に区分されます。西部は高原性の台地をなす酪農の中心地帯であり、東部は標高 500 メートル前後の高原地帯となっています。周辺が小高い山に囲まれているため冬は放射冷却現象で気温が下がり、冬の最低気温はマイナス 33.2℃(平成 12(2000)年 1 月)を記録しました。その一方で、最高気温 37.8℃(令和元(2019)年 5 月)を記録する日もあります。陸別町の歴史としては、医人として名をなし遂げた関寛齋が、72 歳の高齢にもかかわらず、明治 35(1902)年、現在の関地区に理想の農村建設を夢に開拓の鋤をおろしたのが、今日の陸別を築く基となりました。大正 8(1919)年、足寄外 3 村戸長役場から分離し、陸別外 1 村戸長役場(1,011 世帯、4,306 人)が設置され、大正 12(1923)年に 2 級町村制により村名を陸別村と改称しました。昭和 23(1948)年に釧路国支庁から十勝支庁に編入し、昭和 24(1949)年には陸別村を陸別村に改称しました。昭和 26(1951)年、西足寄町斗満地区を合併し、昭和 28(1953)年に陸別町として町制を施行しました。</p>			

## (19) 浦幌町

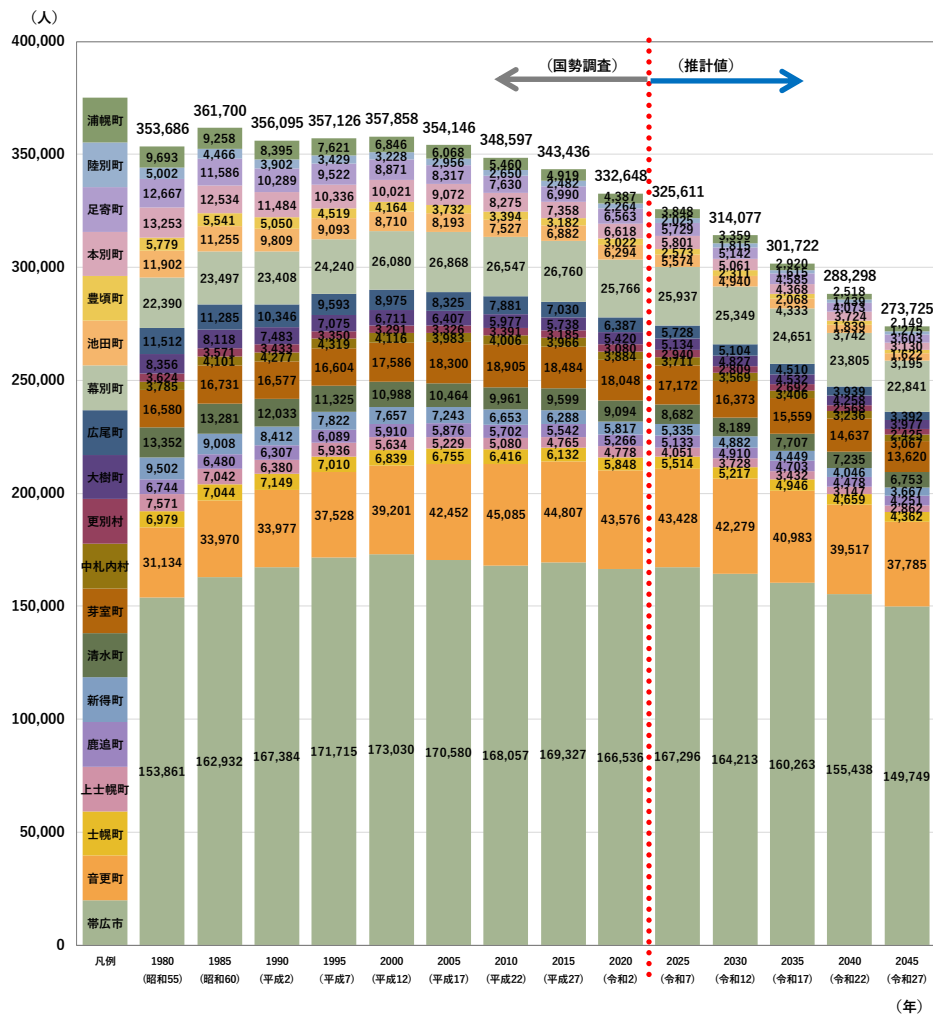
	うらほろちょう 浦幌町	人口：4,416人 (令和4(2022)年1月1日現在) 面積：729.85 km <sup>2</sup>	見どころ・特産等 ・昆布刈石展望台 ・森永北海道 3.6 牛乳(常温 60 日間保存可)
<p>浦幌町は、十勝総合振興局管内の東北部に位置し、帯広市と釧路市のほぼ中間に位置しています。南北は 53.5 km、東西は 25.7km の縦長な形態です。産業は農・林・水産業の第 1 次産業が主体です。農業は畑作(てん菜、馬鈴薯、小麦、豆類が主要作物)と肉牛・乳牛の畜産も行われています。林業は主としてカラマツ(人工林)が住宅建築構造用材、製紙原料のチップ材などに加工、利用されています。水産業は太平洋の沿岸漁業が主体で、秋さけの定置網漁を中心にタコ、ホッキ、ツブ、毛ガニ、シシャモなどの水揚げがあります。浦幌町では、「想いをつないで未来を創る“わたしたちのまち”うらほろ」をテーマに、第 4 期まちづくり計画を進めております。昨今では、浦幌を地域として持続させ、次の世代に引き渡していくことを目的に行う「うらほろスタイル」の取り組みについて、町外の多くの方々に関心を寄せさせていただく中から、全国各地から浦幌町を訪ねて来られる動きも見られています。また、町民とともにまちづくりに関わっていただく中で起業・創業も実現しているところであり、子育て環境の更なる充実を図りながら全世代で築く協働のまちづくりを目指しています。</p>			

## 2.1.3 人口推移等

☒ 2.1.3 では、当地域の人口の推移や年齢構成について示します。

### (1) 人口推移

- ☒ 当地域の総人口は、昭和 60（1985）年の 36 万人をピークとし、令和 2（2020）年時点では 33 万人まで減少し、今後も減少が続く見込みです。
- ☒ 市町村別では、帯広市が当地域の総人口の約半数を占めており、次いで、音更町、幕別町、芽室町の順に多くなっています。
- ☒ 令和 2（2020）年／昭和 55（1980）年比では、音更町、幕別町、芽室町、帯広市、中札内村の 5 市町村（増加比順）で人口が増加していますが、令和 2（2020）年／平成 27（2015）年比では、上士幌町のみ人口増加となっています。



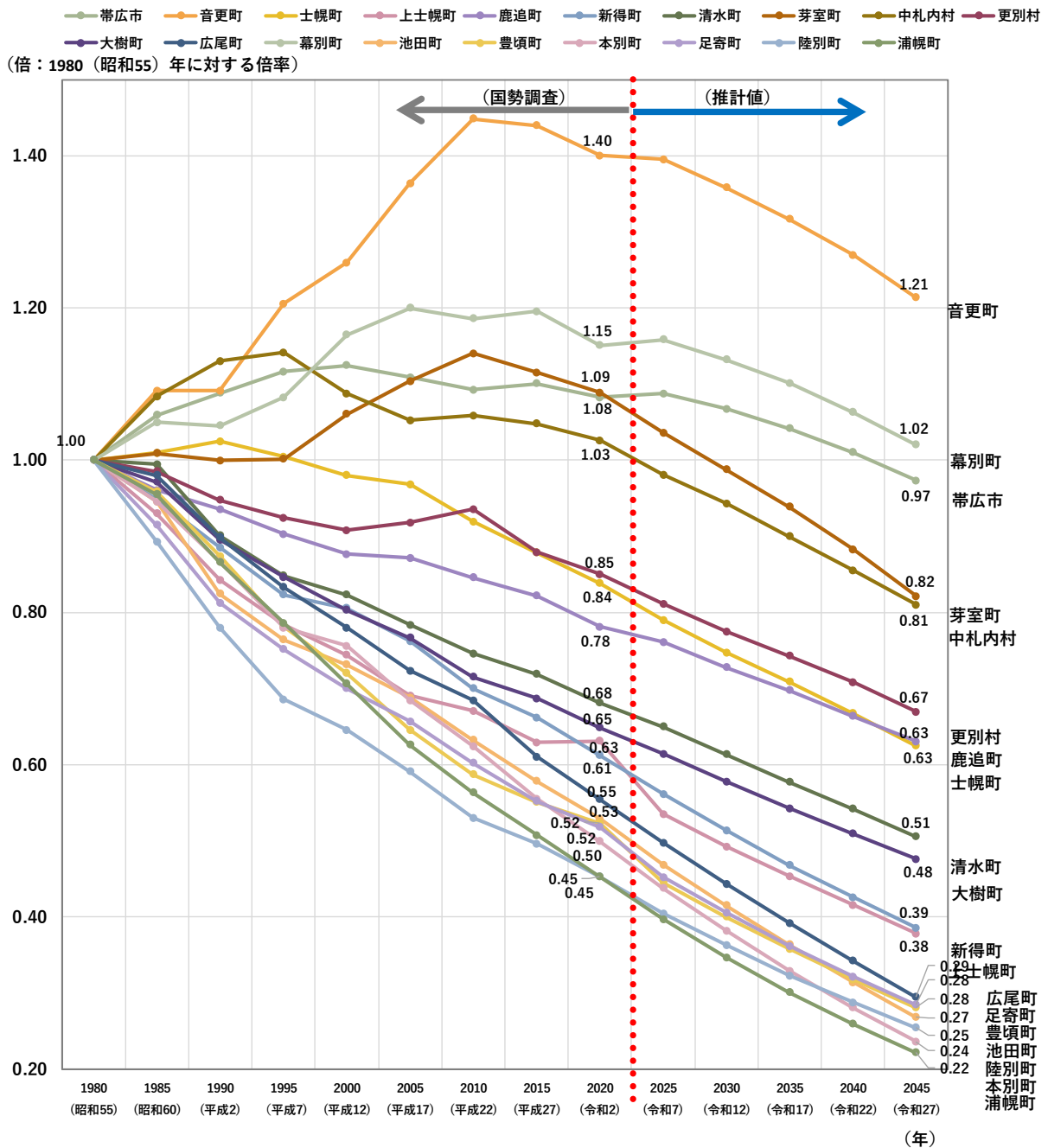
図：市町村別人口推移＋将来推計（実数）

出典：「国勢調査（人口（昭和 55）年-2020（令和 2）年）」（総務省統計局）をもとに作成

(<https://www.stat.go.jp>)、

「日本の地域別将来推計人口（2018（平成 30）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに作成

(<https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.asp>)



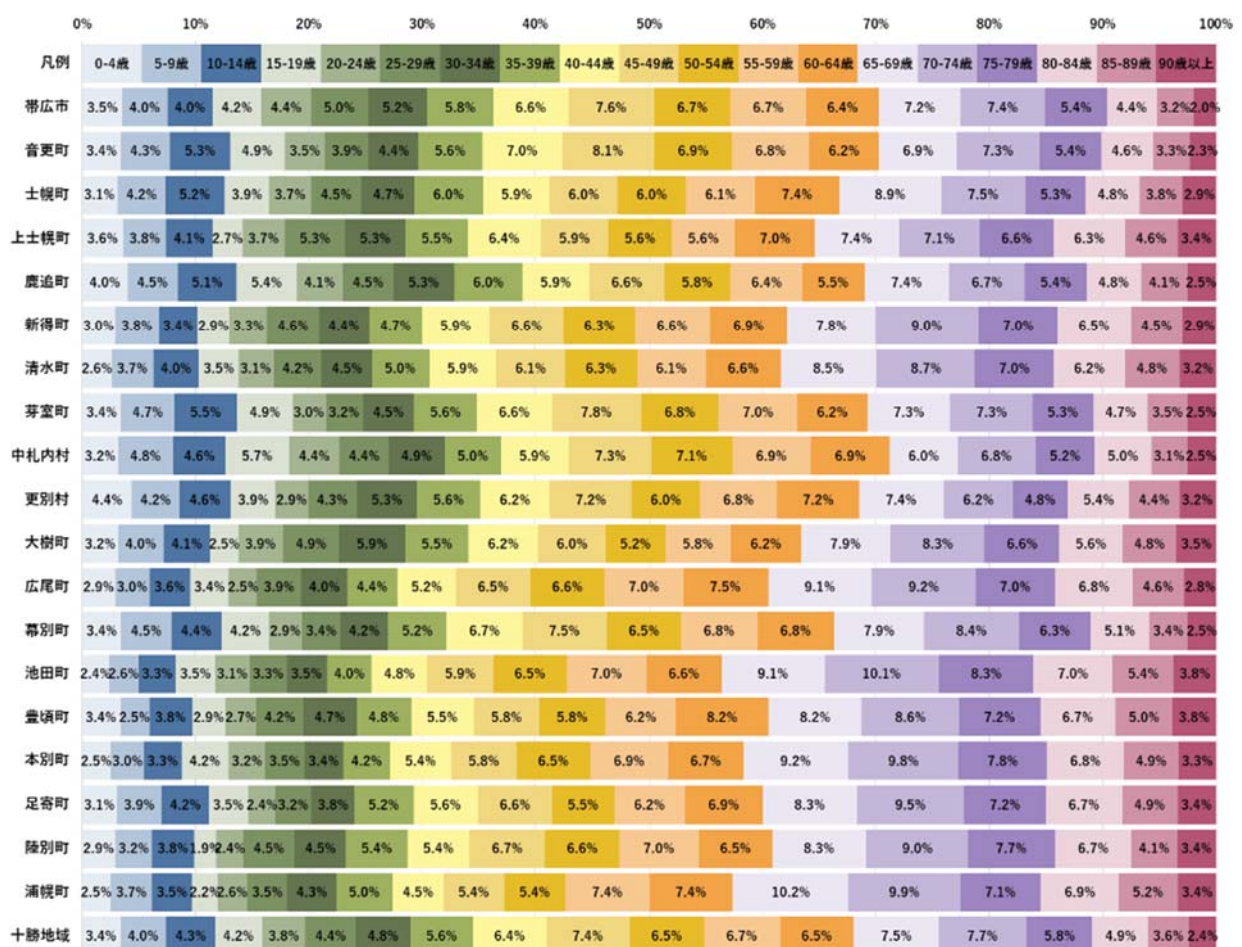
図：市町村別人口推移+将来推計（昭和55（1980）年比）

出典：「国勢調査（人口（昭和55（1980）年-令和2（2020）年）」（総務省統計局）をもとに作成  
 (https://www.stat.go.jp) 、

「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに作成  
 (https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.asp)

## (2) 5歳階級別人口構成比

- ☒ 当地域全体では、[19歳未満：15.9%]、[20-39歳：18.6%]、[40-64歳：33.5%]、[65歳以上：32.0%]となっています。
- ☒ 高齢化率（65歳以上）は、北海道平均の31.8%（令和2（2020）年国勢調査時点）よりやや高い状況です。
- ☒ 市町村別に高齢化率をみると、帯広市、音更町、中札内村が30%未満、鹿追町、芽室町、更別村が十勝全体平均である32%未満となっています。一方で、帯広市からみて東方面に位置している池田町、本別町、足寄町、浦幌町では40%を超えている状況です。その他の市町村は32%～40%となっています。



図：市町村別5歳階級人口構成比

出典：「国勢調査（人口（令和2（2020）年））」（総務省統計局）をもとに作成  
<https://www.stat.go.jp>

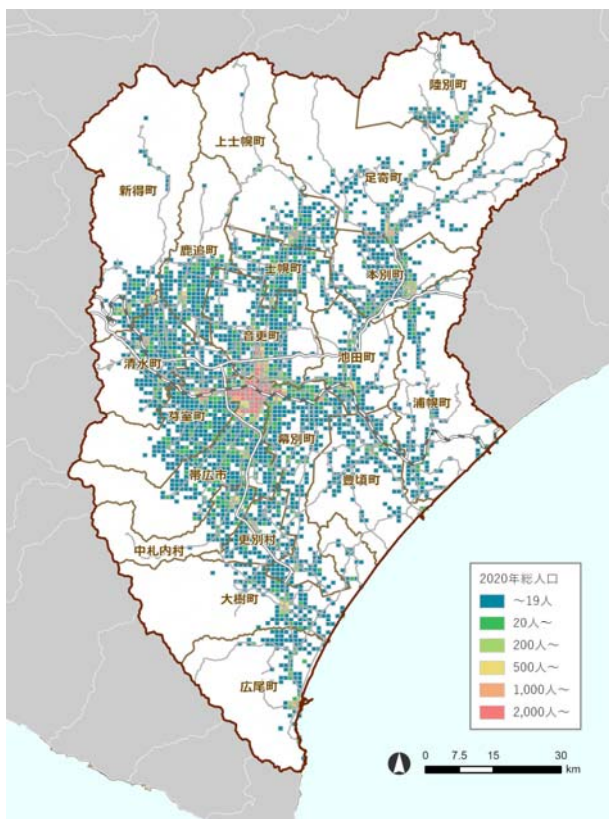
## 2.1.4 人口分布

☒ 2.1.4 では、当地域の人口分布について示します。

## (1) 総人口

- ☒ (現在) 帯広市周辺に人口が集積している状況が窺えます。
- ☒ (現在) その他のエリアでも、国道や鉄道沿線への人口が集中しています。
- ☒ (将来) 帯広市から距離的に遠い地域においては、令和 2 年 (2020) に比べて居住地点数が減少していくことが予想されています。
- ☒ (将来) 帯広市周辺への集積は見られますが、周辺部で減少が見込まれます。

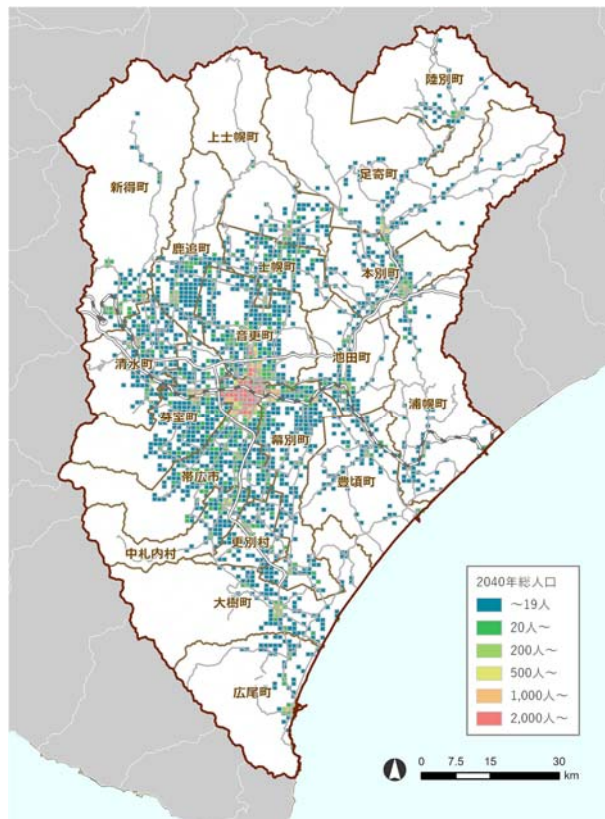
[現在：令和 2 (2020) 年]



図：総人口分布\_令和 2 (2020) 年

出典：「国土数値情報（1km メッシュ別将来人口（平成 30（2018）年国政局推計）」（国土交通省）をもとに作成  
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)

[将来：令和 22 (2040) 年]



図：総人口分布\_令和 22 (2040) 年

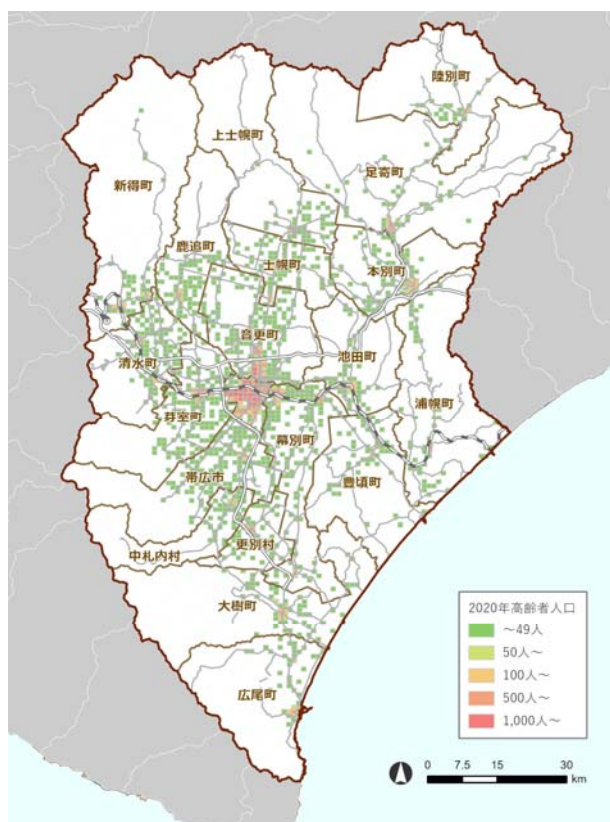
出典：「国土数値情報（1km メッシュ別将来人口（平成 30（2018）年国政局推計）」（国土交通省）をもとに作成  
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)



## (2) 高齢者人口

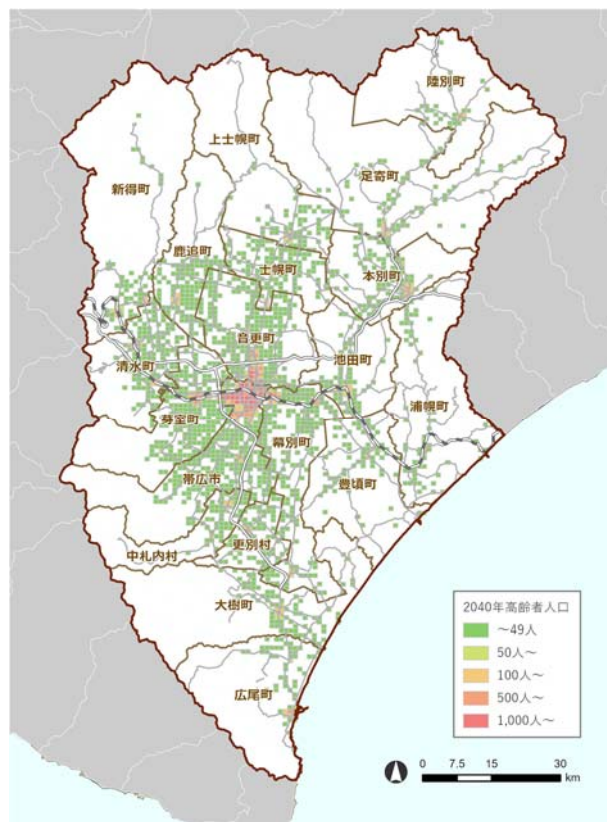
- ☒ (現在) 高齢者人口も総人口と同じく、帯広市周辺に集積している状況が窺えます。
- ☒ (現在) 全体の分布の形状も、概ね総人口と変わらないことが分かります。
- ☒ (将来) 帯広市から距離的に遠い地域においては、令和2(2020)年に比べて高齢者人口が減少していくことが予測されています。
- ☒ (将来) 帯広市周辺(1市3町：帯広市・音更町・幕別町・芽室町)では、高齢者人口は増加する見込みです。

【現在：令和2(2020)年】



図：高齢者人口分布\_令和2(2020)年  
 出典：「国土数値情報(1kmメッシュ別将来人口(平成30(2018)年国政局推計))」(国土交通省)をもとに作成  
 (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)

【将来：令和22(2040)年】

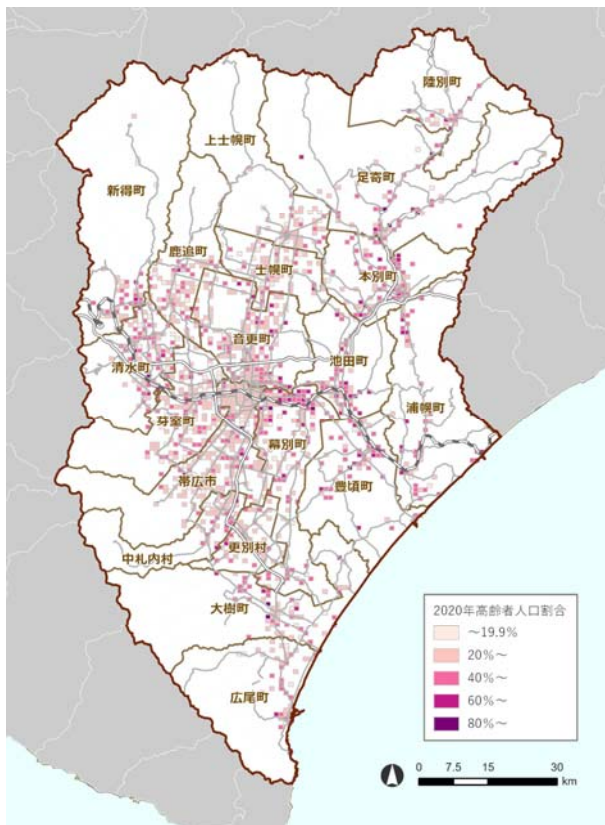


図：高齢者人口分布\_令和22(2040)年  
 出典：「国土数値情報(1kmメッシュ別将来人口(平成30(2018)年国政局推計))」(国土交通省)をもとに作成  
 (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)

### (3) 高齢者比率

- ☒ (現在) 高齢者比率の高い地点は、帯広市周辺以外に広く点在している状況が分かります。
- ☒ (将来) 令和2(2020)年に比べて、帯広市周辺でも高齢者比率が増加していくことが予想されています。
- ☒ (将来) 当地域の東側では市街地での高齢者比率の増加が顕著となる見込みです。

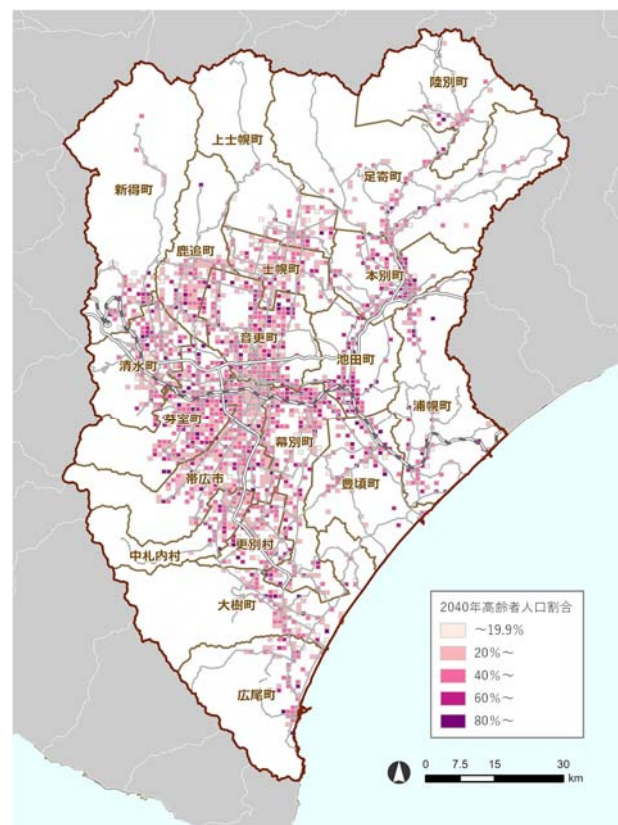
【現在：令和2(2020)年】



図：高齢者比率分布\_令和2(2020)年

出典：「国土数値情報(1kmメッシュ別将来人口(平成30(2018)年国政局推計))」(国土交通省)をもとに作成  
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)

【将来：令和22(2040)年】



図：高齢者比率分布\_令和22(2040)年

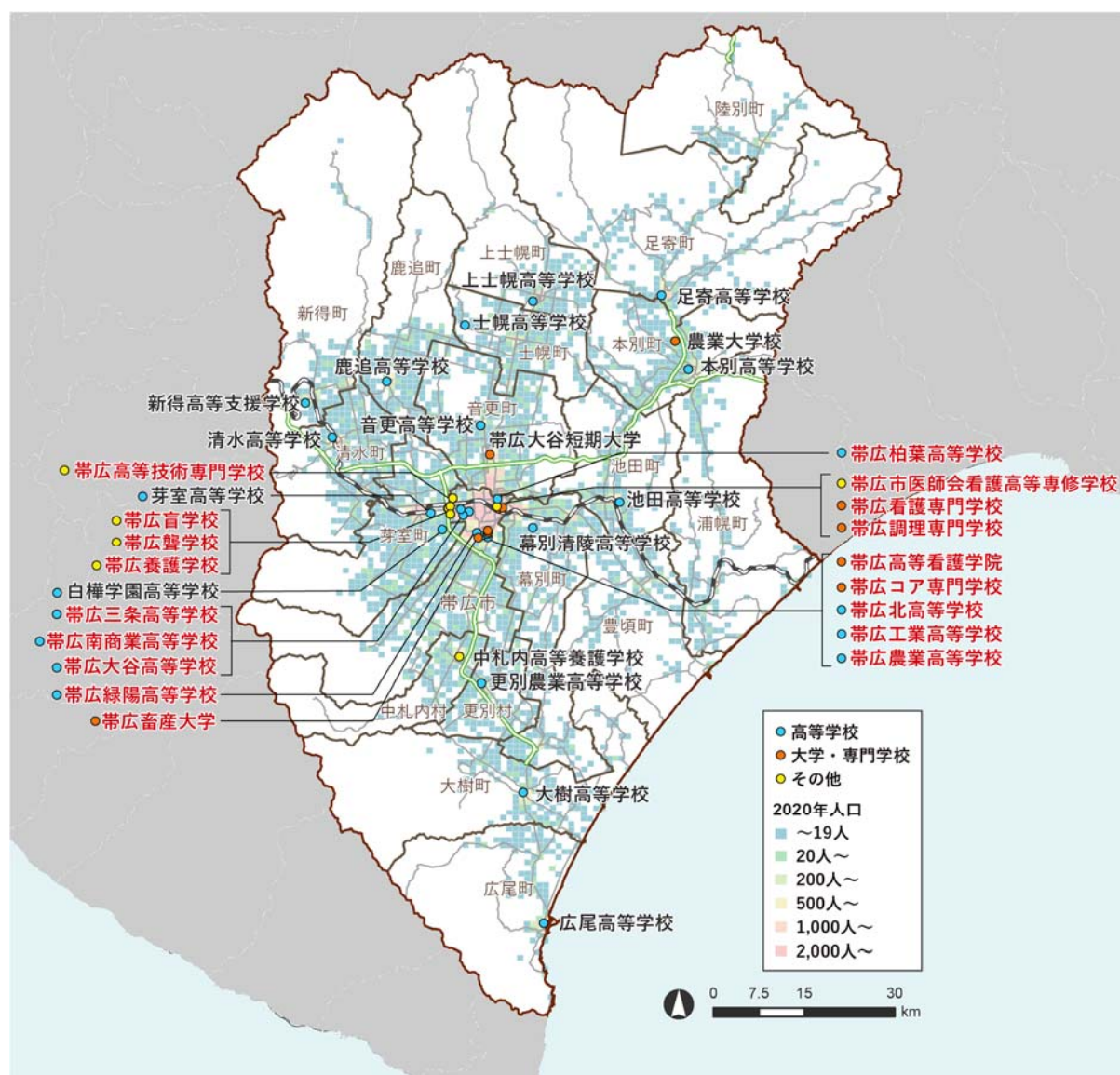
出典：「国土数値情報(1kmメッシュ別将来人口(平成30(2018)年国政局推計))」(国土交通省)をもとに作成  
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)

## 2.1.5 施設立地状況

☒ 2.1.5 では、当地域の各種施設の立地状況について示します。

### (1) 教育施設

- ☒ 大学や専門学校などの高等教育施設は、帯広市周辺に集中しています。
- ☒ 中札内村、豊頃町、陸別町、浦幌町には、高等学校が立地していない状況です。



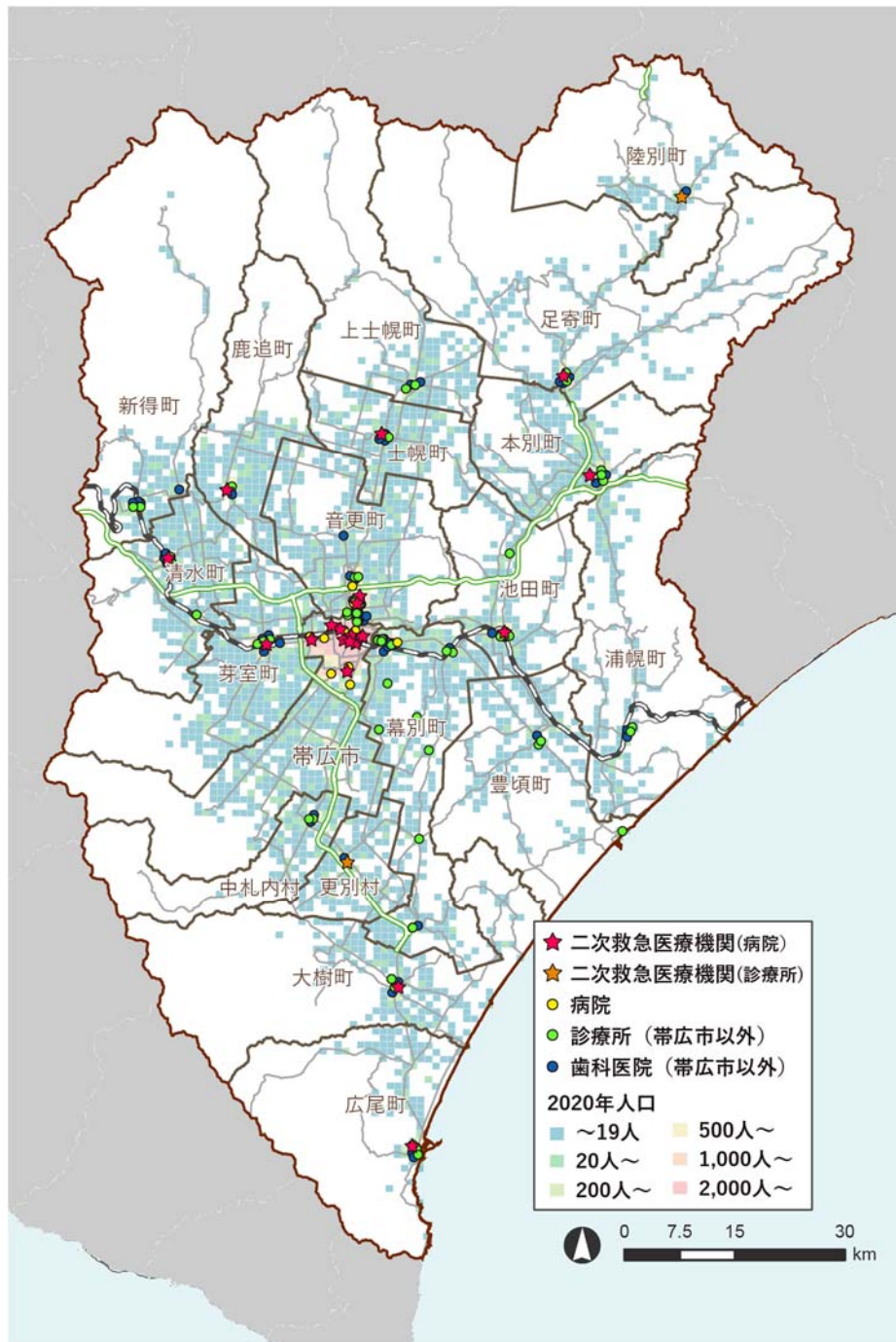
※赤字表記は帯広市内に立地する施設を示す

図：教育施設立地状況

出典：「北海道学校一覧（令和3（2021）年度）」（北海道教育委員会）をもとに作成  
<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/chousatoukei/gakkou-ichiran/gakkou-i.html>

## (2) 医療施設

- ☒ 二次救急医療機関は、帯広市に集中しているものの、概ね十勝全域をカバーするように立地しています。
- ☒ 一方で、浦幌町と豊頃町には、二次救急医療機関が立地していない状況です。



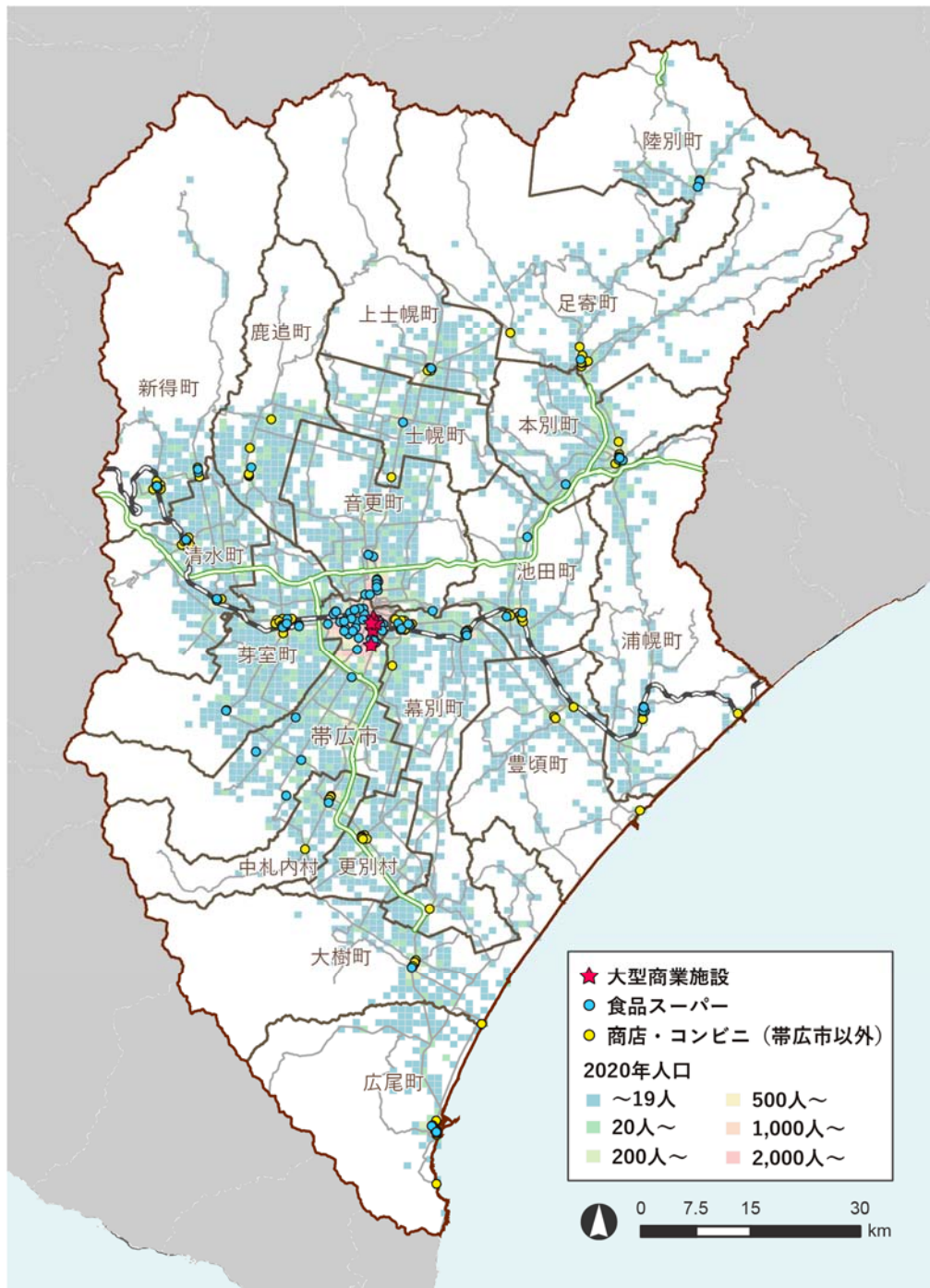
図：医療系施設立地状況

出典：「コード内容別医療機関一覧」（北海道厚生局）をもとに作成（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>）

※二次救急とは、入院治療や緊急手術を必要とする患者に対する救急医療のことです。一次救急は、入院の必要がなく帰宅可能な軽症患者に対して行う救急医療を示し、三次救急は、一次救急や二次救急では対応が困難な重篤疾患等に対する救急医療を示しています。

## (3) 商業施設

- ☒ 大型商業施設の立地は帯広市のみとなっています。
- ☒ 食品スーパーや商店・コンビニはいずれの市町村にも立地していますが、徒歩圏に立地していない地域も多い状況です。

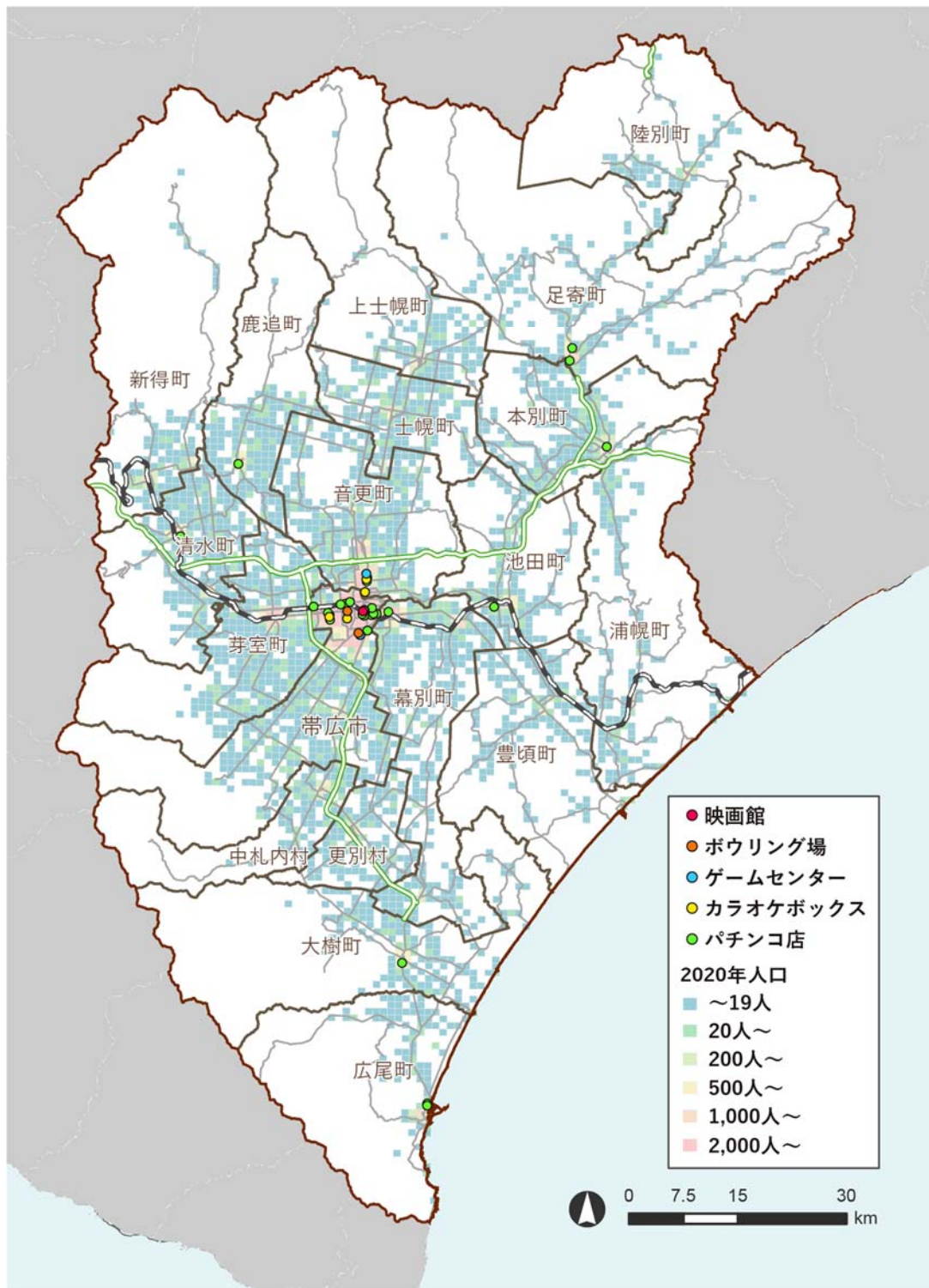


図：商業施設立地状況

出典：「iタウンページ掲載施設」をもとに作成 (<https://itp.ne.jp/>)

(4) 娯楽施設

- ☒ 娯楽施設の立地は帯広市に集中しています。
- ☒ 帯広市以外には、パチンコ店が数件立地しているのみとなっています。

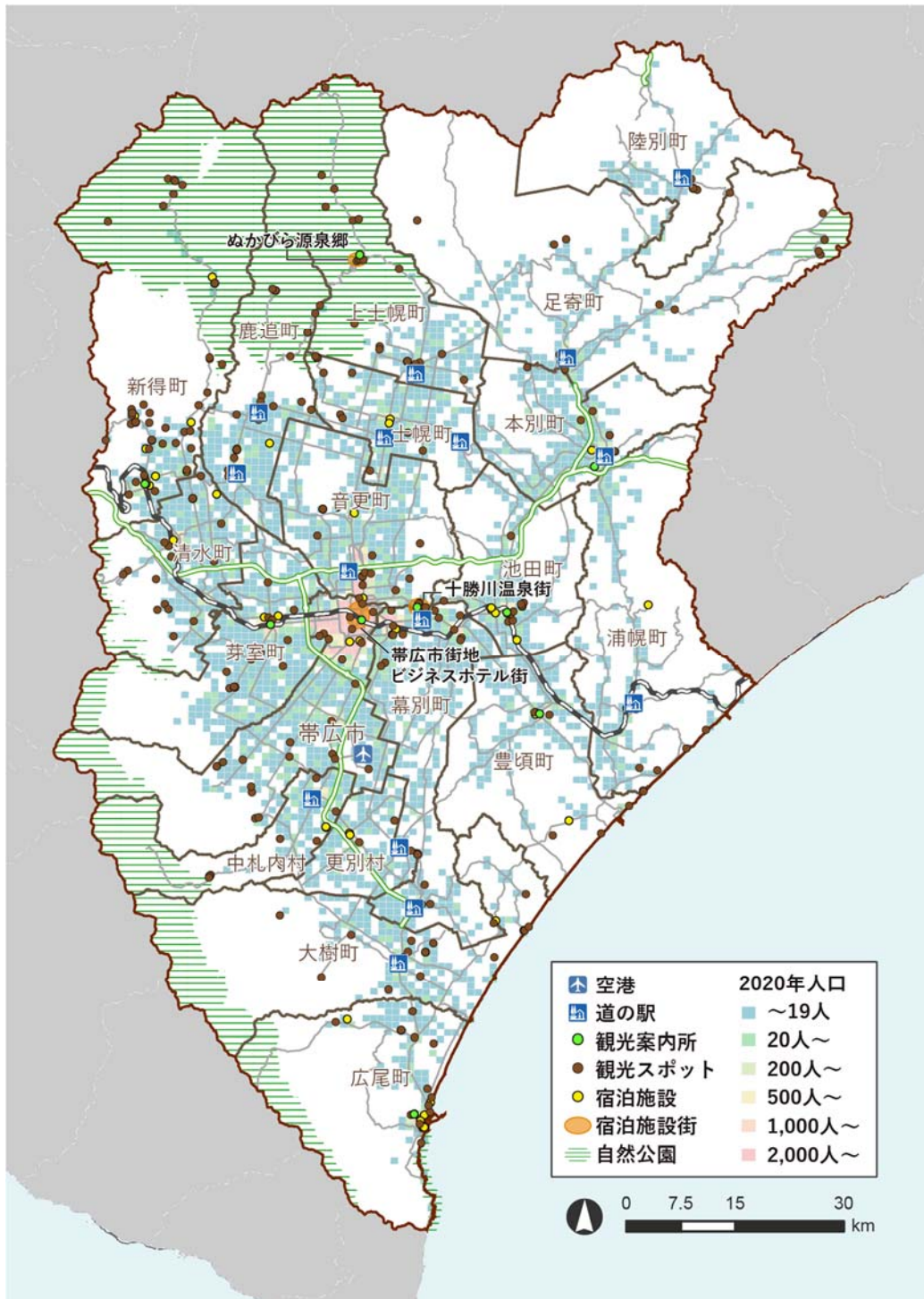


図：娯楽施設立地状況

出典：「iタウンページ掲載施設」をもとに作成 (<https://itp.ne.jp/>)

## (5) 観光関連施設

- ☒ 当地域の観光スポットの所在地は、圏域全体に広く点在しています。
- ☒ 宿泊施設は、帯広市街地や十勝川温泉・ぬかびら源泉郷に集中しています。



図：観光関連施設等立地状況

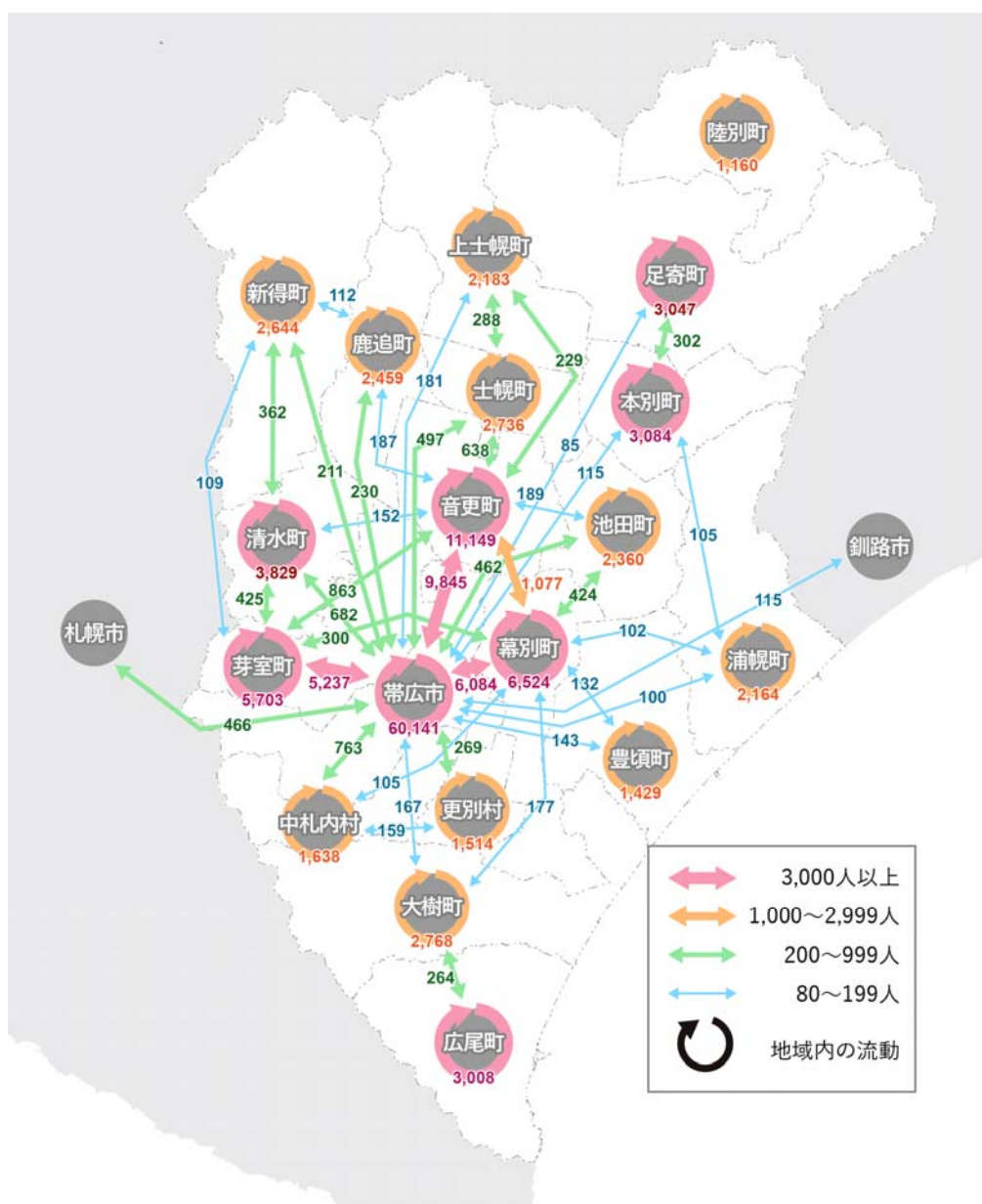
出典：「国土数値情報（道の駅、自然公園データ）」（国土交通省）、「とちかちであそぶ観光マップ（令和元年度版）（観光施設）」、「十勝観光連盟公式サイト「とちかち晴れ」に掲載の施設」（十勝観光連盟）をもとに作成（<https://tokachibare.jp/>）

## 2.1.6 人の動き（通勤・通学・運転免許・観光）

☒ 2.1.6 では、当地域の人口流動や観光実態について示します。

### (1) 通勤流動

- ☒ いずれの市町村でも、市町村内での流動が最も多い状況となっています。
- ☒ 帯広市に隣接する音更町、幕別町、芽室町では、町内流動と帯広市との流動が比較的拮抗している状況が窺えます。
- ☒ その他、音更町と幕別町間の流動も多い状況が分かります。



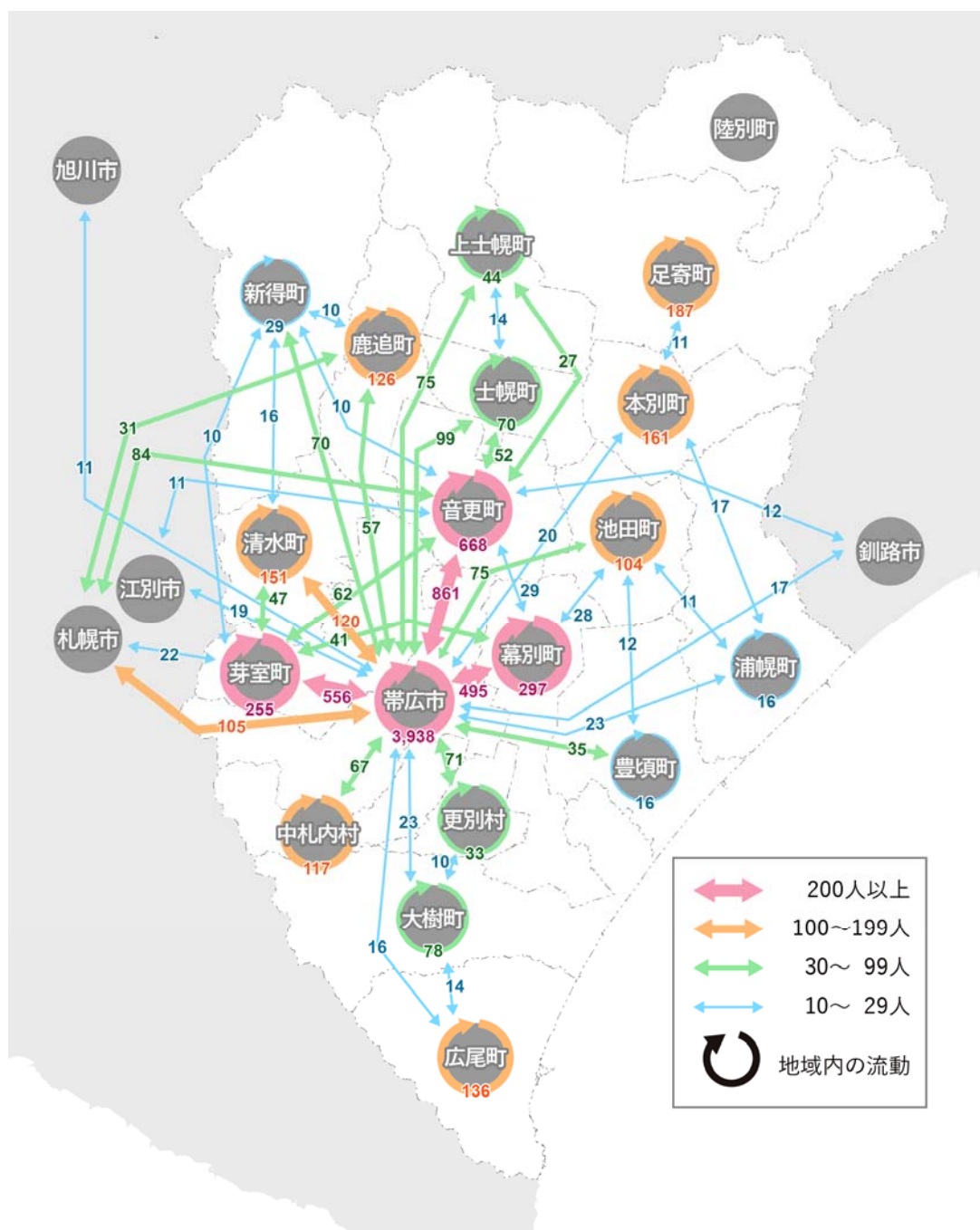
図：人口流動図（通勤）

出典：「国勢調査（令和2（2020）年データ）」（総務省統計局）をもとに作成（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>）



## (2) 通学流動

- ☒ 帯広市内および帯広市と帯広市近郊の町村の流動が多い状況が窺えます。
- ☒ 帯広市に隣接する音更町、幕別町、芽室町では、町内流動よりも帯広市との流動の方が高い状況となっています。
- ☒ 帯広市から距離的に離れている豊頃町、浦幌町、広尾町、大樹町では帯広市との流動が少ない状況となっています。

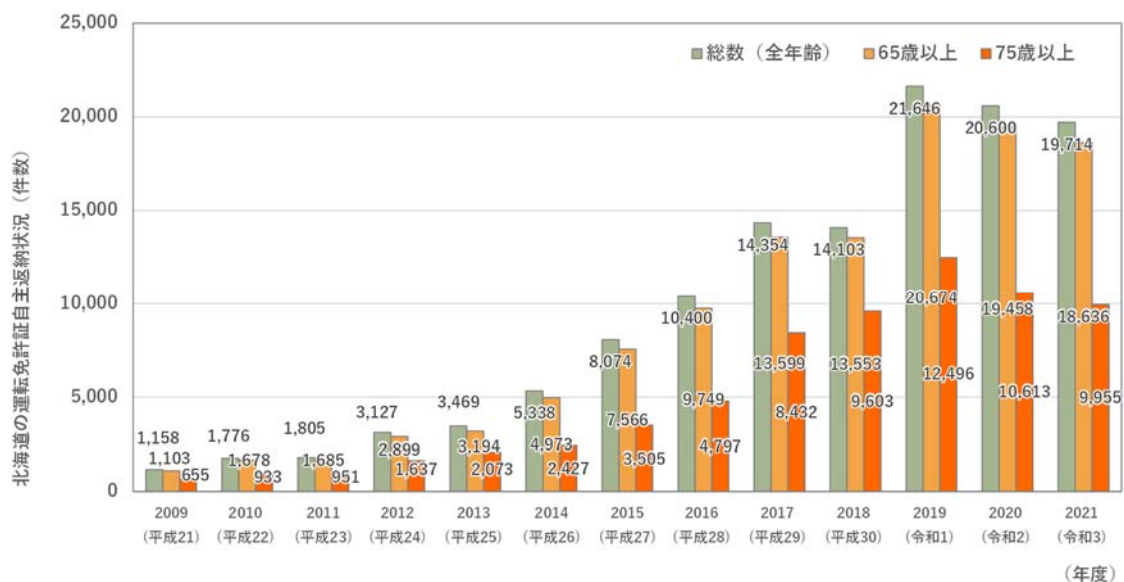


図：人口流動図（通学）

出典：「国勢調査（令和2（2020）年データ）」（総務省統計局）をもとに作成（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>）

### (3) 運転免許返納者数の推移

- 北海道全体の運転免許返納者数は、この十数年で大きく増加し、令和元（2019）年度には、10年前の20倍近い返納者数となっています。
- 一方で、令和元（2019）年度から令和3（2021）年度にかけて免許返納者数は減少しており、この傾向は十勝地域においても同様の傾向が窺えます。



図：北海道の運転免許返納者数の推移

出典：「北海道の運転免許証自主返納件数」（平成21（2009）年度-令和3（2021）年度）」（北海道警察本部）をもとに作成  
[https://www.police.pref.hokkaido.lg.jp/sub\\_menu/04\\_koutuu.html](https://www.police.pref.hokkaido.lg.jp/sub_menu/04_koutuu.html)

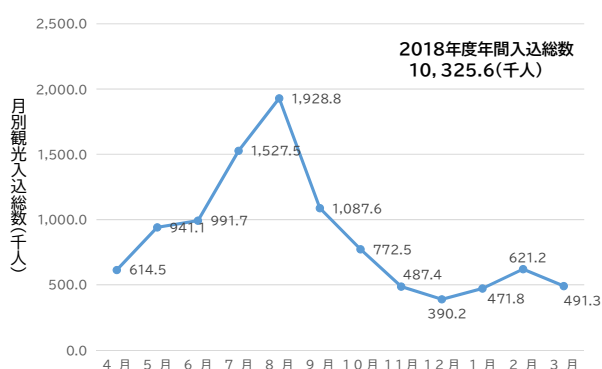


図：十勝地域の運転免許返納者数の推移

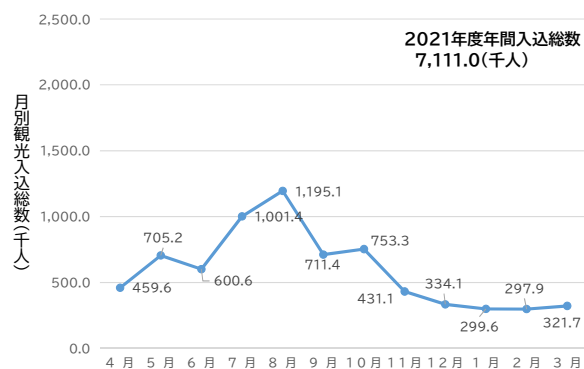
出典：各市町村所管警察署提供資料をもとに作成

#### (4) 観光入込客数

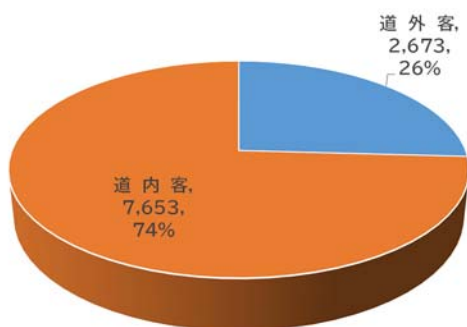
- ☒ 当地域への観光入込客数は、8月のグリーンシーズンがピークとなっています。
- ☒ 新型コロナウイルス感染症の影響が生じる前後では、年間の観光入込客数が3割減少しています。
- ☒ 道内外の比率は道内客の方が多く、新型コロナウイルス感染症の影響が生じる前後では道内客の割合が1割増加しています。
- ☒ 日帰り/宿泊の比率は日帰り客が多く、新型コロナウイルス感染症の影響が生じる前後でその割合はほとんど変わっていません。



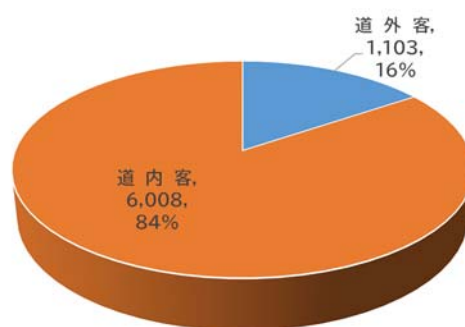
図：十勝管内の月別観光入込客数  
(平成30(2018)年度)



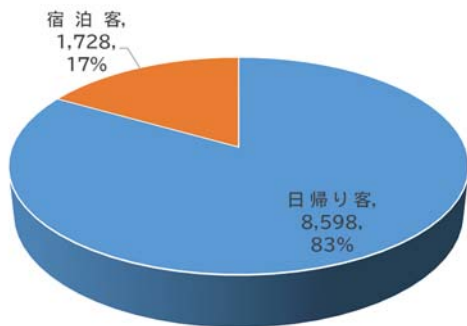
図：十勝管内の月別観光入込客数  
(令和3(2021)年度)



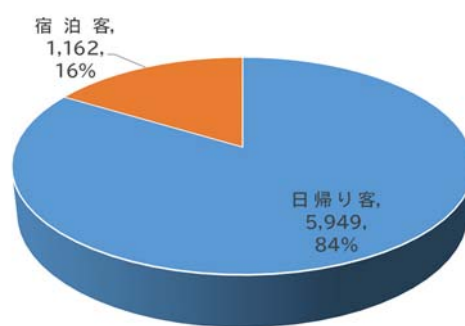
図：十勝管内の入込総数の道外・道内割合  
(平成30(2018)年度)



図：十勝管内の入込総数の道外・道内割合  
(令和3(2021)年度)



図：十勝管内の入込総数の宿泊・日帰り客割合  
(平成30(2018)年度)



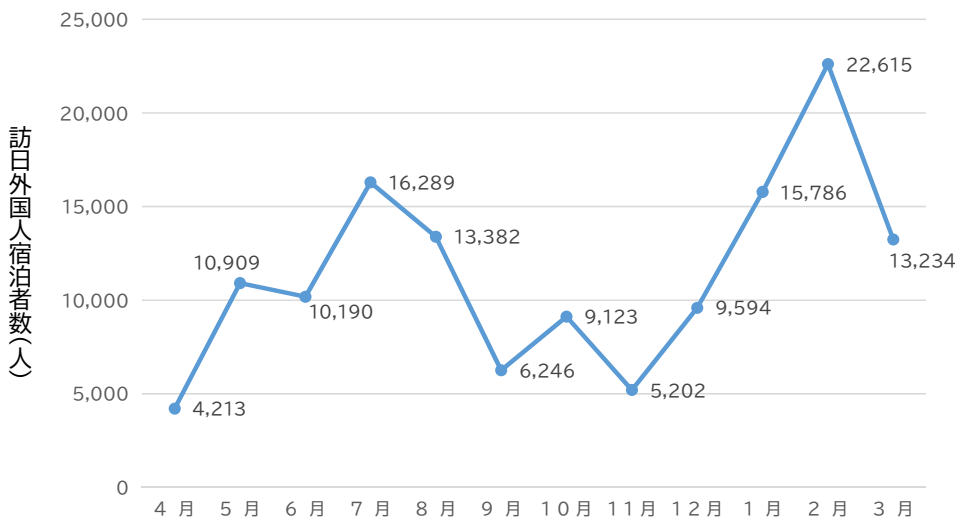
図：十勝管内の入込総数の宿泊・日帰り客割合  
(令和3(2021)年度)

出典：「北海道観光入込客数調査報告書」(経済部観光局観光振興課)をもとに作成

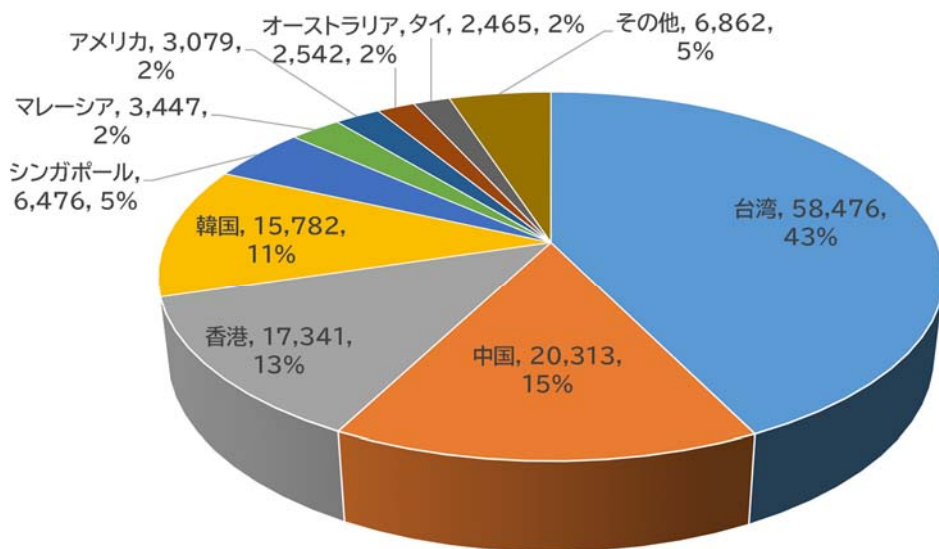
(5) 訪日外国人宿泊者数

※訪日外国人宿泊者は新型コロナウイルス感染症の影響が生じる前後で大幅に減少しているため、新型コロナウイルス感染症の影響以前のデータを掲載しています。以下、新型コロナウイルス感染症の影響以前の状況について述べます。

- ☒ 訪日外国人宿泊者の当地域への訪問ピークは2月となっており、その前後の1月・3月とグリーンシーズンの7月・8月が次いで多い状況です。
- ☒ 宿泊者の主な国籍は、台湾が43%と突出して多く、次いで、中国、香港、韓国と東アジアからの訪問が多い状況です。



図：十勝管内の月別訪日外国人宿泊者数（平成30（2018）年度）



図：十勝管内の国別訪日外国人宿泊者数（平成30（2018）年度）

出典：「北海道観光入込客数調査報告書」（経済部観光局観光振興課）をもとに作成